

## 令和3年度（令和2年度分）「教育委員会が行う点検・評価」概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」と略称）第26条に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、今年度における点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しましたので、その概要について以下のとおりお知らせします。

### 1 点検・評価の目的

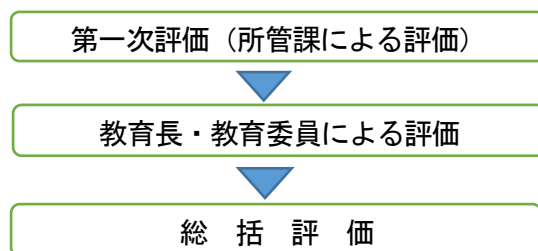
「教育委員会が行う点検・評価」は、その結果に関する報告書を作成し、議会へ提出し、公表することにより、住民への説明責任を果たすとともに、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

### 2 点検・評価の実施方法

#### (1) 対象事業

「いたばし学び支援プラン 2021」の進行管理事業など24事業を対象として、前年度（令和2年度）の状況について点検・評価を実施しました。

#### (2) 点検・評価の流れ



#### (3) 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性と公正性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされていることから（法第26条第2項）、主要事業の評価結果について学識経験者から意見を聴取しました。

学識経験者	今井 英彦（武蔵大学教授）
	松波 紀幸（帝京大学准教授）

### 3 点検・評価の結果

「順調」に進捗した事業が7事業（29%）であり、新型コロナウイルス感染症の影響もあって、計画どおり進捗した事業が少ない状況となっています。また、「いたばしNo.1 実現プラン」の改訂（ローリング）により事業計画が変更となったため実施できなかった事業も6事業あり、厳しい一年となりました。

一方で「概ね順調」と評価した事業が11事業あり、コロナ禍においても代替策を講じることで対応できた事業もあります。

今後の方向性については「工夫して継続」する事業が 18 事業となった一方、「事業手法の見直し」が 3 事業、「目標値・指標の見直し」が 2 事業あり、これらについては事業内容等を見直し、改善につなげていく必要があります。

また、今回の報告書においては、令和 2 年度の大きな動きとして「新型コロナウイルス感染症への対応」及び「GIGAスクール構想実現に向けた取組」についても記載しました。

#### (1) 事業手法の見直し（3 事業）

##### ▶ 「もてなしの心」促進事業の推進・拡充

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会終了後においても、これまでの取組をレガシーとして今後も継続していくため、事業内容の見直しを図ります。

##### ▶ 日本語の能力が十分でない児童・生徒への対応

外国人入国者の増加に伴う対象者への日本語学習ニーズの高まりに対応できるよう事業を再構築する必要があります。例えば、日本語講座の動画配信により家庭内でも親子で日本語を学べる環境づくりなどが考えられます。

##### ▶ プラネタリウムの改修

財政事情からは、プラネタリウムの更新は困難となっています。隣接する平和公園内に開設した新中央図書館との連携を含め、「教育科学館のあり方」について総合的に検討する必要があります。

#### (2) 目標値・指標の見直し（2 事業）

##### ▶ 給食用設備・備品の更新

「いたばしNo.1 実現プラン」の改訂（ローリング）により、令和 3 年度以降の 5 年間で大幅な計画変更が生じています（ドライ化：5 校→3 校、設備改修：24 校→17 校、備品更新：55 台→49 台）。このため新たな指標を設定する必要があります。

##### ▶ 板橋区史跡公園（仮称）の整備

この事業についても、ローリングにより設計スケジュールを延伸するなど史跡公園整備計画が変更となっており、新たな指標を設定する必要が生じています。

### 4 総括評価

今年度の点検評価においては、学識経験者から意見や助言を聴取するほか、学識経験者と教育長・教育委員との意見交換を行い、今回の点検評価を総括しました。

#### (1) 「読み解く力の育成」の意義

読解力は相手を理解し、コミュニケーションをとるために必要なスキルであり、論理的思考の醸成にもつながることから、今後も教科や学年を横断して、本区の定義する「読み解く力」の向上を図りたい。

OECD 調査の中には、世界の様々な資料を読み解くことで、相互理解が図られ、紛争の回避や文化・経済の発展にもつながるといふねらいが当初から窺われた。このような大きな意味でも、読解力に着目し、それを育てていくという Input（認識）-Think（思考）-Output（表現）という「読み解く力の育成」の意義が再認識できる。

## (2) 小中一貫教育への道程

公立校では私立の一貫校と異なり、小・中で「文化が違う」という現場の声も聞かれ、教員間のギャップを埋める努力を教育委員会がバックアップすることが求められる。

小中での授業のつながりをつくるため、板橋区の「授業スタンダード」を作成し、「読み解く力の育成」や「MIM(多層指導モデル=異なる学力層の子どもに対応した指導・支援)」をはじめとする取組により、主体的で対話的かつ深い学びをめざしてきた。他団体では、ハード整備により一貫校をまず造るという方向性も見られるが、板橋区では、「学びのエリア」や9年間を見通したカリキュラムなど教育活動を含めた全面的な展開をしている。今後もこのような一貫したグランドデザインのもとに進めていきたい。

## (3) iCSは中長期的視野で、かつ着実に

板橋区コミュニティ・スクール(iCS)は、過去の着実な取組の積み重ねの上に令和2年度からの全校導入に至っている。これからは、それぞれの地域の特徴や環境に応じたやり方で着実に進めてきた活動の成果をどのように伸ばさせ、表現していくか、というフェーズに入っていく。

専門的な知見を生かせるCS委員の人選が活動の活性化につながるとも考えられるが、一方で、参画する人材により地域や学校間で差が出ることも危惧される。iCSは、学校が本来すべきことに教職員が注力でき、学校が困っていることに地域の知恵や力を借りられるような姿をめざしており、学校による取組状況の違いはあっても、良い事例をモデルとしながら、中長期的な視野をもって一步一步進めていきたい。

## (4) ニューノーマルの機運と働き方改革

新学習指導要領、GIGAスクール構想など学校の仕事は量的にも質的にも増える一方であり、また、現場を見ても教員は仕事を増やすことが得意な職種と感ずるところがある。仕事の差配は教員にしか分からない部分もあるので、出退勤データは確実に各教員へフィードバックし、教員自身が自分で考えていく方向性をとりたい。

教員の働き方改革は、教員が本来の仕事に専念できるようにし、教育の質の向上を図ることを目的としている。学校の内外での地域・家庭との責任分担については、意識改革のためにiCSに調整役として入ってもらうことが非常に重要であり、教員の働き方改革にもつながってくる。

資格職やサポート人員の配置など多様な人的支援策を講じることが、教員が本来の仕事に専念できるようにするためには有効であり、学校現場と丁寧なコミュニケーションをとりつつ、効果を見極め、有効な対策を継続していく必要がある。コロナ禍において、学校の当り前を見直す機運が高まっており、この機会を逃さずに改革を進めていきたい。

## (5) 目的は何か？

PDCAの改善サイクルの最後には何をするのか？最後は自分なりの明確な答えを見出さなければならない。学校教育は一人ひとりの子どもに合わせた教育をめざしており、GIGAスクールのツールを使った個別教育ができる時代になってきたので、これを推進することで、かかる目的を達成していくことが一つの答えと考えられる。

板橋で育った子どもたちが社会で活躍してくれること、そのロールモデルづくりに向けて、どのような教育をしていくのが肝心であり、これが個々の教員の改善サイクルの指標となる。

【評価結果一覧】

番号	事業名	評価評語	方向性
1	板橋区立学校学級安定化対策事業の実施	順調	工夫して継続
2	プログラミング教育の推進	概ね順調	工夫して継続
3	「もてなしの心」促進事業の推進・拡充	順調	事業手法の見直し
4	特別支援教室(STEP UP 教室)の導入	順調	工夫して継続
5	特別支援学級の設置	順調	工夫して継続
6	日本語の能力が十分でない児童・生徒への対応	概ね順調	事業手法の見直し
7	スタートカリキュラムの推進	順調	工夫して継続
8	「板橋のi(あい)カリキュラム」の作成・実践	概ね順調	工夫して継続
9	読みの力を身に付ける指導の実施	概ね順調	工夫して継続
10	読み解く力の育成を通じた学力向上	概ね順調	工夫して継続
11	「いたばし魅力ある学校づくりプラン」の推進	概ね順調	工夫して継続
12	学校の改築	—	工夫して継続
13	学校の改修	—	工夫して継続
14	学校施設の整備	—	工夫して継続
15	給食用設備・備品の更新	—	目標値・指標の見直し
16	板橋区コミュニティ・スクール(iCS)の導入	概ね順調	工夫して継続
17	中央図書館の改築及び事業の拡充	達成	—
18	生涯を通じた読書活動の支援	概ね順調	工夫して継続
19	「絵本のまち板橋」の推進	概ね順調	工夫して継続
20	プラネタリウムの改修	—	事業手法の見直し
21	板橋区史跡公園(仮称)の整備	—	目標値・指標の見直し
22	旧粕谷家住宅の公開	順調	工夫して継続
23	家庭教育支援チームの拡充	概ね順調	工夫して継続
24	教職員の働き方改革	概ね順調	工夫して継続

\* 評価標語が「—」の事業は、いたばし No.1 実現プラン改訂(ローリング)により事業計画が変更となったもの

評価標語	順 調	目標に向け順調に進捗しており、目標達成が見込める
	概 ね 順 調	目標に向け進捗しており、目標達成が期待できる
	停 滞	目標に対して進展していない
	達 成	既に目標を達成している
方向性	工夫して継続	
	事業手法の見直し	
	目標値・指標の見直し	
	事業の廃止	

4 公表

報告書を区のホームページへ掲載するとともに、区政資料室及び区立図書館において、閲覧できるようにしています。また、「教育チャンネル」「教育の板橋」などの広報媒体、学校等メール配信システム、SNSなどによる情報発信も併せて行います。